

# 見つめて鼻で ヘルプ、ミー

## 馬の行動 神戸大准教授ら発表

馬は困ったときに人の注意をひいて助けを求める――

こんな研究結果を神戸国際文化化学研究科の山本真也准教授（比較認知科学）らが発表した。国際学術誌に掲載された。

馬は約6千年前から家畜として、人の暮らしと密接に関わってきた。これまでに人の表情を理解し、見た目や声で人を見分けることは分かっていた、今回は馬

が困ったときにどんな行動をとるか検証した。

同大馬術部のサラブレッド8頭と学生の協力を得

馬が人に助けを求めるときの様子

バケツにニンジンを入れて立ち去る



状況を知らない飼育員がくる



た。まず、馬から届かないところに置かれたバケツに、学生がニンジンを入れてその場を離れる。その様子を見ていなかった飼育員の学生が来ると、馬は飼育員の近くに行き、長い時間見つめたり、鼻で飼育員を触ったりした。研究チーム

は「えさを取って欲しい」と伝えるために助けを求め行動をした、と判断している。えさを入れなかったときより入れた方が助けを求める行動は多かった。

次に、バケツにニンジンを入れる場面を飼育員が見ている時と見ていない時を比べると、見ていなかった方が、馬がより飼育員の注意を引こうとしていた。

同大のリングホーファー・萌奈美・学術研究員は「飼育員がえさの存在を知っているかどうかを判断して行動を変えた」とみられる」と話す。

（後藤一也）